

## 所感

# イワクラ保存について

柳原輝明

昨年の秋、宮城の浜田善博会員より一通のお手紙を頂いた。そこには、山形県の東根市にあるピラミッド状の美しい山、石崎山と立石山が古代のピラミッドではないかとの想いが述べられていた。そして、その想いを地元の方に知っていたいただきたいとの願いから「提案書」をまとめられ地元へ提案された。同時に、鈴木先生を始め当イワクラ(磐座)学会にもその提案書を送ってこられ、検証をお願いしてこられた。

イワクラ(磐座)学会として、先ず、この話を会報で広く会員に知ってもらおう事が重要ではないかと言う事で一致した。ピラミッド山やイワクラの存在とその重要性を広く一般の人々に知ってもらう事、そして、先ずはイワクラ(磐座)学会会員、特に東北地区に住む会員に知ってもらう事が大切と判断したからである。

イワクラ保存については過去に多くの人たちが努力をしてこられ、その結果破壊を免れたイワクラもあったが、一方でその何倍ものイワクラが破壊されてきたという現実がある。ゴルフ場の開発によって破壊されたイワクラがどれほどあったであろうか、また、国の大規模レクリエーション開発により破壊されたイワクラがどれほどあったであろうか。近くは、今から5年ほど前、奈良県の山添村において村の福祉センターの造成に伴い巨大なイワクラが破壊された。

当時、これが貴重な古代遺産である事を誰も知らなかったということである。それゆえに、何の反対運動も無のまま無為に破壊されてしまった。幸いその中の最大の丸い磐はその巨大さゆえに破壊を免れ、今日村のシンボルとなっている。しかしながら、本来のイワクラの形状は破壊されてしまい、まことに残念な結果となっている。これと同じような事は全国いたるところで起こっているし、これからも起こるであろう。

このことは二つのことを示唆している。一つはイワクラが古代の民俗遺産である事を広く一般の人に知らしめる事である。古墳等の周知の文化遺産を破壊する人はいないであろう。それが貴重な文化遺産であると知っているからである。今ひとつは、地元の人たちが地元にあるイワクラ(巨石)の存在を知って、愛着を持ってもらうことである。これによって、イワクラが破壊から免れ、保存に繋がっていくことが期待できる。

その意味において、今回の提案は、イワクラ(磐座)学会の目指す一つの目的(イワクラの価値の認識と周知そして保全)に繋がる動きとなっていく可能性を持っている。

今回幸い、浜田会員の提案に対して、既に東根市においてイワクラの研究をされていた岡崎武会員という存在があり、その先行している研究成果を発表していただくことで、山形の東根市にすばらしい古代文明の痕跡が浮かび上がったように思う。このことを、我々イワクラ(磐座)学会の内部に留めるのではなく、地元民及び東根市に働きかける事が必要と信ずる。

なお、私個人として、この東根市及びその北に位置する尾花沢市はともに古代の貴重鉱物資源である水晶と丹生水銀産地であり、古代の鉱物資源産出地帯と巨石文明地帯との関連について強い興味を抱いているところである。